

新規実施項目のお知らせ

謹啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。
この度、新たな検査項目の受託開始について、下記の通りご案内いたします。
健康と医療の未来に貢献すべく、より良い検査サービスのご提供に努めてまいります。
謹白

記

■ 受託開始日 2025 年 6 月 2 日（月）ご依頼分より

■ 新規項目内容一覧

項目コード	検査項目 JLAC10	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査 方法	基準値 (単位)	群臨 コード
A857 0	Mac-2 結合蛋白 糖鎖修飾異性体 (M2BPGi) 定量	血清 0.5	O1 ↓ (X)	冷蔵 (14日)	2~4	194 ※4	CLEIA	0.84未満 (AU/mL)	6224

※4：生化学的検査（I）判断料

今回の新規項目受託開始に伴い、下記項目の受託を中止させていただきます。

項目コード	項目名	最終受託日	群臨コード
A040 6	Mac-2 結合蛋白糖鎖修飾異性体 (M2BPGi)	2025年 5月 30日（金）ご依頼分まで	6221

総合検査案内電子版



● Mac-2 結合蛋白糖鎖修飾異性体（M2BPGi） 定量

カットオフインデックス（C.O.I.）から定量値での評価が可能となりました。

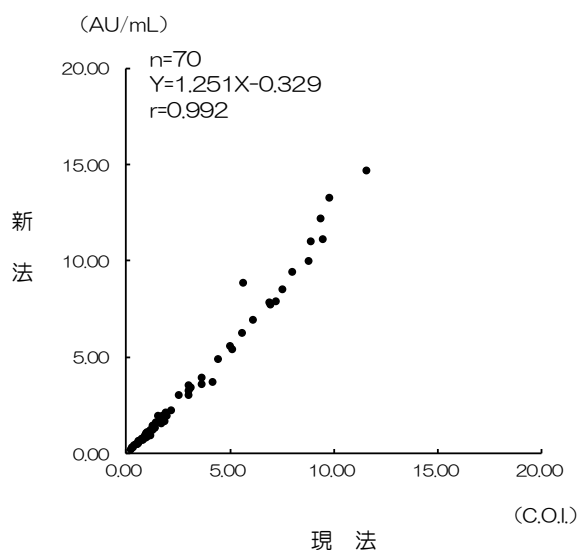
M2BPGi（Mac-2結合蛋白糖鎖修飾異性体：Mac-2-binding protein glycosylation isomer）は、肝生検との一致率が高く、肝線維化のステージを反映することから肝線維化マーカーとして知られています。従来法によるカットオフインデックス（C.O.I.）から定量値となることで、肝線維化の進行をより詳細に評価することが可能となり、慢性肝炎や肝硬変の早期発見から治療方針の選択・モニタリング時の検査としてさらなる活用が期待されています。

▼検査要項

	新	現
検査項目名	Mac-2 結合蛋白糖鎖修飾異性体（M2BPGi） 定量	Mac-2結合蛋白糖鎖修飾異性体（M2BPGi）
項目コード	A857 0	A040 6
検体量	変更はありません	血清 0.5 mL
容 器	変更はありません	01→（X）ポリスピッツ
保 存 方 法	変更はありません	冷蔵保存してください
所 要 日 数	変更はありません	2～4 日
検 査 方 法	変更はありません	CLEIA
基準値（単位）	0.84未満（AU/mL）	（－） 1.00未満（C.O.I.）
報告範囲（単位）	0.10未満、0.10～59.9、60.0以上（AU/mL）	0.10未満、0.10～20.00、20.01以上（C.O.I.）
桁数	有効3桁、整数2桁、小数2桁	有効4桁、整数2桁、小数2桁
検査実施料	変更はありません	①②③ 194点 （「D007」血液化学検査「50」）
判断料	変更はありません	144点（生化学的検査（I）判断料）
備 考	変更はありません	&1

- ①「Mac-2結合蛋白糖鎖修飾異性体」は、2ステップサンドイッチ法を用いた化学発光酵素免疫測定法により、慢性肝炎又は肝硬変の患者（疑われる患者を含む。）に対して、肝臓の線維化進展の診断補助を目的に実施した場合に算定する。
 ②「サイトケラチン18フラグメント（CK-18F）」と「プロコラーゲン-Ⅲ-ペプチド（P-Ⅲ-P）」、「Ⅳ型コラーゲン」、「Ⅳ型コラーゲン・7S」、「ヒアルロン酸」、「Mac-2結合蛋白糖鎖修飾異性体」又は「オートタキシン」を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。
 ③「ELFスコア」と、「Ⅳ型コラーゲン」、「Ⅳ型コラーゲン・7S」、「Mac-2結合蛋白糖鎖修飾異性体」、「オートタキシン」又は「サイトケラチン18フラグメント（CK-18F）」を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

● 相 関



- 参考文献 Uojima H, et al : J Gastroenterol 58 (12) : 1252～1260, 2023.

（検査方法参考文献・臨床的意義参考文献）